

那須の歴史
再発見!

那須町と 近現代の人々

vol.21



関谷富貴 (1903-1969)

9月号は、旧伊王野村出身の芸術家・関谷富貴について紹介します。

関谷富貴(旧姓三森)は、明治36年に父三森福三・母三森トクの子として誕生しました。本名はカネといひ、母の姉・タイは黒羽出身の画家・関谷雲崖の妻でした。富貴は15歳の時点で両親を亡くし、また兄の春治も大正13年に亡くなったことから、昭和2年に分家独立し、昭和6年に弟の清春を養子として自らは隠居し家督を譲っています。

富貴の転換期は、関谷陽との出会いといえます。陽は関谷雲崖の長男であり洋画家として活躍した人物で、富貴とは従姉妹にあたります。富貴の名は、陽の生家があった現在の大田原市富貴田にちなんだと考えられています。富貴と陽は遅くとも昭和18年まで

には東京都世田谷区の松原で暮らしていたと考えられ、入籍したのは昭和28年でした。

富貴は、陽が開催した絵画教室で教室の世話をし、生徒たちへの面倒見も大変よかつたといわれています。陽が制作や展覧会のため家を空けた際、富貴は絵を描いていました。その姿は誰にも見せなかつたようです。富貴が描いた作品は、現在約200点確認されています。その多くが昭和30年代後半から40年代前半に制作され、カンヴァスや紙、画用紙に油彩や水彩、油性パステルなどで描かれました。富貴の作品は、抽象的なものが多いですが、人物や、花、鳥をモチーフにしたものもあり、顔を題材にしたと考えられる連作も存在します。

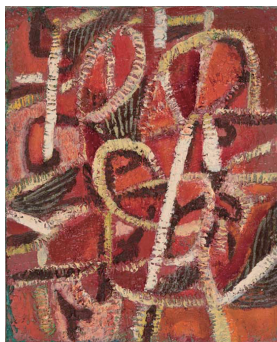
また富貴の作品には、スイスの画家パウル・クレーやロシアの画家ワシリー・カンディンスキーの影響をみることができ、同時代の画家から大いに刺激を受けていたことがわかります。

現在、富貴の作品は栃木県立美術館に収蔵されています。

作品が展示された際には、那須町の郷土の画家の作品をぜひともご覧ください。

(写真は栃木県立美術館「関谷富貴作品目録」より転載。左の富貴の作品は栃木県立美術館より提供いただいた)

▼問合せ 那須歴史探訪館
☎74-7007



かつこう

その日は、夜になるのが待ち遠しく、まだ日が高いうちからソワソワしていました。「どこから行く？」「隣のおばちゃんちからにしようよ」きょうだいたちと今夜の相談をします。やっと日が暮れ始め、辺りが暗くなるのを待って出発です。空き瓶に近所から採ってきたであろうスキを差し、大きなザルには芋やかぼちゃ、そし

てお団子が並んでいます。「あつ、あつ」お目当てのお菓子をみつけ、急いで袋に入れ、そそくさと次の家へと向かいます▼お月見どるぼうは、十五夜に飾られるお月見のお供え物を子ども達が盗む風習で、この日に限って盗むことが許されていたとされています。また、農作物の実りに感謝する行事で、お月見どるぼうにお供え物を盗まれると豊作になるともいわれています▼子どもたちは月明りに照らされながら、自分たちだけで

夜道を歩きます。暗闇にドキドキしながらも、次の家、また次の家と一軒一軒回り、途中、他のグループに会うと、自分の方がたくさん取ったとお互いの袋を見せ合います。そんな様子を大人たちはそっとう見守り、時にはもう遅いから早く帰れと促しながら、子どもたちを楽しませるイベントを過ごさせるのです▼今年の十五夜は9月29日(金曜日)です。たくさんのお供え物を用意してかわいい盗人待ってしましよう。

こんにちは

赤ちゃん



令和5年6月生まれ

たかく あいる
高久 愛琉くん



あいるくんは...
あんくん、ずっとまりんお姉ちゃんと仲良く
でいてね♡

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集
しています。詳しくは企画政策課広報広聴係
(☎72-6935) まで。

町の世帯と人口

(8月1日現在・住民基本台帳) ()の数字は前月比

・世帯数	10,753世帯 (+ 10)	出生	3人 (- 2)
・人口	24,135人 (- 12)	死亡	28人 (0)
	男 12,028人 (- 6)	転入	73人 (+ 9)
	女 12,107人 (- 6)	転出	59人 (- 21)
		その他	1人減

広報那須がスマートフォンなどで読むことができます



マチイロ

